

## 岐阜関ヶ原古戦場記念館協議会 議事要旨

日 時 令和5年3月7日（火）10時30分～11時40分

場 所 岐阜関ヶ原古戦場記念館 3階セミナールーム

参加委員 いなもと委員、笠谷委員、瀧委員、北村委員、三輪委員

欠席委員 伊藤委員、松川委員

県(事務局) 小和田館長、梅本副館長、堀観光国際局副局長、吉村関ヶ原古戦場活用推進室長

### 【会議の概要】

#### 議題1 岐阜関ヶ原古戦場記念館協議会会長の選任について

- ・互選により、三輪委員が会長に選任された。

#### 議題2 令和4年度運営実績及び令和5年度予定について

- ・事務局から資料に沿って説明した。

#### 議題3 意見交換

(いなもと委員)

- ・全ての戦略がカッチリはまった事業内容で、ぐうの音も出ない
- ・意見という程ではないが、資料にはショップと飲食店の取組みの記載がない。SNS上ではミュージアムショップが話題になっているが、これらを絡めた取組みがあれば教えてほしい。

(梅本副館長)

- ・ショップとレストランは別館の場所貸しにより運用してもらっている。当館の企画展示や大河ドラマ展等のイベントと連動して新規商品やレストランメニューを開発いただいている。毎週1回、各機関担当者が集まる連携会議を開催しており、情報交換を行いながら進めている。売上げも順調に伸びている。

(笠谷委員)

- ・来館者の4分の3が日帰り。宿泊できないことがもったいない。何とか関ヶ原に宿泊施設を設けられないか、できれば温泉施設があると一番いい。
- ・関ヶ原全体を楽しんでもらうためには、2日間を要する。平地を見るのに1日、南宮山や松尾山、烽火台を見るのにもう1日が必要。
- ・岐阜県としては、県全体で泊まってもらえればよいという考え方なのか。町と県で考え方が違うかもしれないが、町に宿泊施設があると、県外の人間からは大変嬉しい。

(梅本副館長)

- ・元々、関ヶ原町には、民泊施設を除いて他に、宿泊施設がなかった。コロナの影響もあり、

なかなか思うようにいかなかったが、最近、グランピング施設がオープンしたりしており、これらの施設との連携も必要と考えている。

(笠谷委員)

- ・ 大江戸温泉物語や万葉の湯など全国展開しているスーパー銭湯兼宿泊施設があるが、外部の考え方からはこういった施設があると有難い。

(梅本副館長)

- ・ 「関ヶ原古戦場ランドデザイン」という形で、町と県が一緒になって考え、取り組んでいきたい。

(笠谷委員)

- ・ 竹中家文書に関して、概要、目録等の整理状況について、説明してほしい

(小和田館長)

- ・ 竹中重門の御子孫が持つておられた資料の一部をご寄贈いただいたもの。今後も関ヶ原合戦の参戦武将の御子孫のお宅で眠っているような資料があれば、記念館に集めたいと思っている。

(瀧委員)

- ・ 観光連盟として、お出かけウォッチャーというデータ調査を行っており、この位置情報のデータを分析してみた。古戦場記念館を訪れた人のうち、その前後に笹尾山を訪れた人が26%、大垣駅が2割、レスト関ヶ原が15%いる。これをどう評価するか。記念館を核として、古戦場の他の史跡を巡る楽しみ方の提案、記念館のWEBページでの紹介など、どうしたら、このエリアの滞在時間を長くできるのか、考える必要がある。
- ・ 広域的な連携の推進という観点で、位置情報のデータを見ると、記念館と大垣城や岐阜公園の往来が合わせて10%程いて、広域で巡る人も多い。QRコードでお互いのイベント情報が見られるなど、相互に連携し、パンフレットの配架、WEBページでの相互リンクなどの取組みを充実させていくことが必要ではないか。近隣に宿泊施設が少ないため、西美濃だけではなく、岐阜市を巻き込んだ広域での取組みが必要。大阪方面から飛騨地域へのツアーの経由地、立ち寄り場所としてもらう工夫が必要ではないか。
- ・ 忘れていけないのは「食べ物」。グルメマップには多くの食事場所があるが、知られていないのでは。QRコードを使った飲食店紹介も重要。せきがはら人間村の「未来食堂」など洒落たスポットもある。観光客にお任せではなく、食事スポットを盛り込んだ史跡ミニツアーの実施等、観光客を誘導する仕掛けが必要ではないか。
- ・ 観光連盟でも、国内の旅行会社を対象としたファミトリップ(招請)、商談会の開催により、

関ヶ原古戦場記念館や古戦場関連の旅行商品の造成を支援。

令和5年度には県外からの修学旅行誘致を強化する方針。首都圏において、学校や旅行会社を対象とした説明会を新規に開催。旅行会社向けの助成金も継続して交付予定。

大阪の旅行会社へヒアリングした結果で、ここ記念館は歴史を学ぶ場としては非常に良い。ただし、最近の学校側の要望は、「学ぶだけではなく、ゲーム性があること。身体を使って楽しめるエンターテインメント性があること」が必要とのこと。リトルワールドでの2年間の勤務経験において、サーターアングギー、沖縄そば、芋煮などのご当地食事企画と、民族衣装やサーカスなどの体験イベントが大当たりだった。結果的に博物館は素通りで、外で遊んで帰るお客が増えてしまったが... 関ヶ原でも記念館入場で満足するのではなく、周辺での食事や宿泊施設、遊びや体験プログラムにまで広げることが必要ではないか。

(北村委員)

- ・ 記念館や別館止まりでその先に足を伸ばすお客さんが少ないので、周遊できる仕組みがあるとよい。アンケートを見ていると、リピーターが少ない。特別展を企画されても、情報発信が不十分なのではないか。自分自身も本日が2回目の来館であり、関ヶ原町民もまだ来館していない人が多い。まずは町民に知ってもらい、口コミで広がっていけばよい。
- ・ 県外のお客さんが多いので、関ヶ原町に宿泊施設を設けてお迎えしたい。
- ・ 冬場の来客が少ないのが悩みどころ。雪が多いというイメージがあるが、実はあまり降っていない。冬場もイベントを企画すれば、お客さんが増えるのではないか。館内だけでなく、ふれあい広場や陣場野公園など、外でのイベントも人の流れができてよいのではないか。
- ・ 歴史学習、教育の場として、学校単位で来館してもらえるとよい。その後、子どもから親へと評判が伝わり、来館者が増えていく。

(小和田館長)

- ・ 自分自身が関ヶ原合戦を研究してきたという立場から、いろんな講師の方を呼んで、講演会やセミナーを開催してきたが、若手研究者も育ってきており、やってきて良かったと思っており、今後も継続していきたい。
- ・ 記念館を核とした関ヶ原学会とか、関ヶ原研究会というようなものを考えており、それを普及させるような仕掛けができればいいなと思っている。

(笠谷委員)

- ・ 若い人たちの歴史離れが問題視されているが、関ヶ原やお城は小学生でも関心を持ちやすいので、関ヶ原を中心とした小学生レベルの若い世代の組織が立ち上がるとよい。

(小和田館長)

- ・ 昨年は「ねこねこ日本史」今年「忍たま乱太郎」と、夏休み特別イベントを企画しており、子どもたちの関心と呼び覚ますような仕掛けも必要と考えている。

(笠谷委員)

- ・「友の会」のような会員組織はないのか。リピーターを増やしたいなら、グッズやバッジなどの特典があるとよい。特に甲冑体験は人気がある。甲冑を着て関ヶ原を回れるなら、かなりの来客が期待できるだろう。検討いただきたい。

(三輪委員)

- ・入館者数の右肩上がり、社会的には評価されること。ただ、開館後2年半という期間では、ご祝儀相場という側面もあるため、この数字に決して甘んじることはできない。コロナが一段落するこれからは本格的に入館者数を意識する必要がある。
- ・入館者数を増やすためには、友の会のような関連組織を設置し、双方で融通しあって、お互いに評価しながら対応していく流れも大切である。
- ・近年、文化財保護法が改正され、文化財を積極的に利活用していこうという動きがあり、そのためのお金がつくような仕組みがある。文化財を利活用するためのファンドや助成金を使って、いかに充実した展覧会をやっていくかということ、活動形態の中で取り組んでいくことが大事である。
- ・年間4回の特別展を実施されているが、規模の大小を問わず、1回の特別展にかかる学芸のエネルギーは相当のものである。しかし、そのエネルギーはやがてリピーター確保につながっていく。
- ・特別展をしっかりとやらばやるほどお金がかかる。今は10年前と比べて、助成金制度が充実している。展示設備、文化財の修理など、いろんな場面で助成金が活用できる。民間ファンドも努力している。助成金をしっかりと活用することが、良い特別展を持続可能なものとするための土台づくりにつながる。
- ・良い展覧会は一見地味に見えるが、実はリピーターやファンを徐々に増やしていく。2～3年持続することで、この記念館が持っている性格が明らかになっていき、安定的な入館者数が保てると思われる。
- ・加えて、観光との両立を考えること。この種の施設の生きる道と言える。
- ・他の類似施設としっかり連携をとりながら、ユーザの交換（来館者の往来）や学芸的な交流をしたりして、“常に新鮮であれ”ということ意識して取り組んでいくこと。5年も経つと新鮮さが乏しくなる。新鮮さをいかに保つかを考えると、人の動き方なども含めて、是非工夫されたい。
- ・記念館を、県、東海地域だけでなく、全国、世界にも発信していくことを考えているところだと思うが、あの手この手で新鮮さを求める流れを作っていくこと。当分の間は、いろんな分野で新鮮さを常につないでいくことが重要。
- ・外部の評価をどうやって取り込んでいくのか。独自の外部評価委員会を設置しないのか。今はどこの行政機関でも当たり前のように設置している。評価の善し悪しを気にする必要はない。評価は、刺激にも、反発の材料にも、次の新しい発想のエネルギーにもなる。或い

は逆手にとって予算取りにもつながる。

- ・このようなフィールドミュージアム的な取り組みは全国的にも珍しい。しかも様々な直接的な実体験ができる場所は本当に珍しい。マンパワーをどんどん増やして頑張ってもらいたい。

(笠谷委員)

- ・外国人来館者の誘致についてどのような取り組みがあるのか。

(梅本副館長)

- ・まず、映像コンテンツには英語字幕を表示している。主要な展示物には5カ国語の解説が聴けるようなQRコードを貼付している。受付案内時には、英語が話せるスタッフが対応したり、ポケットクを利用して対応したりしている。

(笠谷委員)

- ・インバウンド需要が増えてきており、東京や大阪などの大都市の人の動きを把握する必要がある。外国人には甲冑、戦争、関ヶ原が大変人気となっており、ネットフリックスでも非常に関心が高い。

(三輪委員)

- ・フィールドミュージアムとして、各史跡地の外国語表示はどうなっているのか

(吉村室長)

- ・外国語4カ国語、日本語を含めて5カ国語を表示しており、関ヶ原町が全ての史跡地に整備したものである。県においても、記念館や古戦場を英語で紹介する動画を制作し、観光連盟の英語表記サイト「Visit Gifu」に先日掲載したところである。また、来年度予算でも、記念館の歴史的背景などを紹介するような多言語パンフレットの制作も検討している。

(笠谷委員)

- ・「姫路」への外国人人気が高い。その人気・関心を関ヶ原に惹き付けることは十分に可能であると考えるので、是非検討いただきたい。

(三輪委員)

- ・少なくとも国内の類似施設と連携を図る必要がある。相互にパスポート交換できるような取り組みがあるといい。

(三輪委員)

- ・甲冑・刀剣類は、手当が大変で有職故実的な作法が求められるため、文化財の中では扱いはげらぐら厄介なものという認識がある。関ヶ原は、甲冑・刀剣類などの展示・利活用が許容されたフィールドである。他所では気軽に触れないが、関ヶ原では親しみをもって触れあ

うことができるといった、取扱いに係る拠点になってほしい。

武家有職が残っているのは関ヶ原だけくらいで、関ヶ原は有職故実の家元と言ってもいい。そういう所に記念館の特徴がある。気が付かなかった所に魅力があったという点を掘り下げて行ってほしい。

(北村委員)

- ・広報に関して、若者に人気の YouTube の活用を検討されたい。地元ゆかりの YouTuber や人気 YouTuber に、甲冑を着て関ヶ原を散策してもらって、関ヶ原古戦場を PR してもらいたい。